

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2024年2月9日
【四半期会計期間】	第7期第3四半期（自 2023年10月1日 至 2023年12月31日）
【会社名】	SBIリーシングサービス株式会社
【英訳名】	SBI Leasing Services Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 佐藤 公平
【本店の所在の場所】	東京都港区六本木一丁目6番1号
【電話番号】	(03)6229-1080(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 吉原 寛
【最寄りの連絡場所】	東京都港区六本木一丁目6番1号
【電話番号】	(03)6229-1080(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 吉原 寛
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次		第6期 第3四半期 連結累計期間	第7期 第3四半期 連結累計期間	第6期
会計期間		自2022年4月1日 至2022年12月31日	自2023年4月1日 至2023年12月31日	自2022年4月1日 至2023年3月31日
売上高	(百万円)	19,726	34,951	39,572
経常利益	(百万円)	1,482	3,667	3,532
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	1,020	2,585	2,443
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,587	3,207	2,753
純資産額	(百万円)	16,612	20,908	17,778
総資産額	(百万円)	45,796	85,077	48,354
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	140.90	332.44	331.32
潜在株式調整後 1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	139.28	332.01	328.50
自己資本比率	(%)	36.2	24.6	36.7

回次		第6期 第3四半期 連結会計期間	第7期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自2022年10月1日 至2022年12月31日	自2023年10月1日 至2023年12月31日
1株当たり四半期純利益	(円)	2.83	110.27

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

- 当社は、2022年6月27日開催の取締役会決議により、2022年7月22日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っております。第6期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。
- 第6期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、当社株式は2022年10月19日に東京証券取引所グロース市場に上場したため、新規上場日から第6期第3四半期連結累計期間の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。  
また、第6期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、新規上場日から第6期の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態の状況

##### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は74,755百万円となり、前連結会計年度末に比べ37,472百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が5,565百万円減少しましたが、商品出資金が26,806百万円、販売用航空機等が16,150百万円それぞれ増加したことによるものであります。

固定資産は10,322百万円となり、前連結会計年度末に比べ748百万円減少いたしました。これは主に、賃貸資産が557百万円、繰延税金資産が220百万円それぞれ減少したことによるものであります。

この結果、総資産は85,077百万円となり、前連結会計年度末に比べ36,723百万円増加いたしました。

##### (負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は50,613百万円となり、前連結会計年度末に比べ33,970百万円増加いたしました。これは主に、未払法人税等が2,208百万円減少しましたが、短期借入金が36,199百万円増加したことによるものであります。

固定負債は13,555百万円となり、前連結会計年度末に比べ376百万円減少いたしました。これは主に、長期借入金376百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は64,169百万円となり、前連結会計年度末に比べ33,593百万円増加いたしました。

##### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は20,908百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,129百万円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益2,585百万円、繰延ヘッジ損益の増加622百万円及び剰余金の配当77百万円によるものであります。

#### (2) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間における国内経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されて以降、インバウンド需要や個人消費、企業業績に回復傾向が見られます。一方で、世界的な金利情勢の影響や中国経済の減速、不安定な世界情勢など、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社グループの事業領域である航空業界におきましては、業界全般で堅調な回復を見せており、旺盛な旅客需要を受けた航空各社の業績回復や今後のさらなる旅客需要増加への期待が高まっています。また、環境性能の優れた次世代機材への継続的な発注も行われています。ただし、航空機エンジンのトラブルなどによる影響が航空各社の業績にどのような影響を与えるかを注視していく必要があります。

海運業界におきましては、中東情勢の悪化の影響により迂回ルートでの航行を選択する船舶が増加しており、幅広い船種において運賃上昇などの影響が見られております。その他にも、パナマ運河の渇水に伴う通行規制や二酸化炭素等の温室効果ガス削減に向けた環境規制の本格的な導入の影響も確認されており、今後も地政学リスクの高まりや各種規制による影響を注意深く見てまいります。

このような環境の中、当社グループのオペレーティング・リース事業においては、本第3四半期にJOL商品を4機組成するとともに、JOLCO商品では為替変動リスクに対応した円建て商品を中心に組成を行うことで、多様な商品をバランスよく取り揃え安定的に商品を提供していくための商品在庫の確保を行っております。商品販売においては、前年同様に為替の変動が大きい局面がありましたが、本第3四半期では、円建てのJOLCO商品を中心に販売を行うとともに、実物資産投資であるJOL商品を1機販売し、当第3四半期連結累計期間でのJOL商品の販売を5機（前年同四半期は2機）へと拡大させました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高34,951百万円（前年同四半期比77.2%増）、営業利益3,921百万円（同109.4%増）、経常利益3,667百万円（同147.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益2,585百万円（同153.4%増）となりました。

また、商品組成金額は239,027百万円（前年同四半期比117.5%増）、商品出資金等販売金額は56,621百万円（同22.3%増）となりました。

なお、当社グループはオペレーティング・リース事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	28,000,000
計	28,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (2023年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2024年2月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,776,800	7,776,800	東京証券取引所 グロース市場	単元株式数 100株
計	7,776,800	7,776,800	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
2023年10月1日～ 2023年12月31日	-	7,776,800	-	1,032	-	1,032

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	-	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 7,773,100	77,731	-
単元未満株式	普通株式 3,700	-	-
発行済株式総数	7,776,800	-	-
総株主の議決権	-	77,731	-

（注）「単元未満株式」の欄には、自己株式が42株含まれております。

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 退任役員

役職名	氏名	退任年月日
取締役副会長	久保田 光男	2023年9月15日

(2) 異動後の役員の男女別人数及び女性の比率

男性 9名 女性 -名（役員のうち女性の比率 -％）

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,812	8,246
営業未収入金	340	221
商品出資金	21,768	48,575
販売用航空機等	-	16,150
その他	1,360	1,560
流動資産合計	37,283	74,755
固定資産		
有形固定資産		
貸貸資産		
貸貸資産	8,893	8,335
貸貸資産合計	8,893	8,335
社用資産		
建物附属設備	62	60
工具、器具及び備品	4	3
社用資産合計	67	63
有形固定資産合計	8,960	8,399
無形固定資産		
のれん	309	270
ソフトウェア	28	23
無形固定資産合計	337	293
投資その他の資産		
関係会社株式	193	279
関係会社出資金	48	56
繰延税金資産	1,375	1,154
その他	155	138
投資その他の資産合計	1,773	1,629
固定資産合計	11,071	10,322
資産合計	48,354	85,077

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	8,800	44,999
1年内返済予定の長期借入金	502	502
未払金	383	224
未払法人税等	2,914	705
契約負債	3,320	3,766
その他	722	414
流動負債合計	16,643	50,613
固定負債		
長期借入金	13,904	13,528
資産除去債務	27	27
固定負債合計	13,932	13,555
負債合計	30,575	64,169
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,032	1,032
資本剰余金	3,912	3,912
利益剰余金	12,809	15,316
自己株式	-	0
株主資本合計	17,754	20,261
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	6	629
その他の包括利益累計額合計	6	629
新株予約権	17	17
純資産合計	17,778	20,908
負債純資産合計	48,354	85,077

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	19,726	34,951
売上原価	15,564	28,874
売上総利益	4,162	6,076
販売費及び一般管理費	2,289	2,155
営業利益	1,872	3,921
営業外収益		
受取利息及び配当金	0	0
商品出資金売却益	63	105
為替差益	14	62
その他	1	1
営業外収益合計	78	169
営業外費用		
支払利息	285	338
支払手数料	170	83
株式交付費	12	-
その他	0	-
営業外費用合計	469	422
経常利益	1,482	3,667
特別損失		
関係会社清算損	3	-
特別損失合計	3	-
税金等調整前四半期純利益	1,479	3,667
法人税、住民税及び事業税	1,418	1,136
法人税等調整額	959	53
法人税等合計	459	1,082
四半期純利益	1,020	2,585
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,020	2,585

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	1,020	2,585
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	566	622
為替換算調整勘定	0	-
その他の包括利益合計	567	622
四半期包括利益	1,587	3,207
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,587	3,207

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当社においては、オペレーティング・リース事業に必要な運転資金の効率的な調達を行うため、金融機関と当座貸越契約及び貸出コミットメントライン契約を締結しております。これらの契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	55,150百万円	66,550百万円
借入実行残高	8,800	44,999
差引額	46,350	21,550

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)
減価償却費	290百万円	506百万円
のれんの償却額	39	39

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2022年10月19日に東京証券取引所グロース市場に上場いたしました。上場にあたり、2022年10月18日を払込期日とする公募増資(ブックビルディング方式による募集)による新株式350,000株の発行により、資本金及び資本準備金がそれぞれ479百万円増加しております。

また、2022年11月21日を払込期日とする第三者割当増資(オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資)による新株式330,000株の発行により、資本金及び資本準備金がそれぞれ452百万円増加しております。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が1,032百万円、資本剰余金が3,912百万円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自2023年4月1日 至2023年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月26日 定時株主総会	普通株式	77	10	2023年3月31日	2023年6月27日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、オペレーティング・リース事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## (収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

(単位:百万円)

	オペレーティング・リース事業				合計
	ファンド事業		ゼネラルア ピエーショ ン事業	プリンシパ ルインベ ストメ ント事業	
	JOL商品	JOLCO商品			
商品(航空機等)の販売	14,761	-	-	-	14,761
業務受託による収益	739	3,344	27	-	4,111
顧客との契約から生じる収益	15,501	3,344	27	-	18,873
その他の収益(注)	305	-	209	337	853
外部顧客への売上高	15,807	3,344	237	337	19,726

(注)「その他の収益」はリース取引に係る売上高であります。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

(単位:百万円)

	オペレーティング・リース事業				合計
	ファンド事業		ゼネラルア ピエーショ ン事業	プリンシパ ルインベ ストメ ント事業	
	JOL商品	JOLCO商品			
商品(航空機等)の販売	27,753	-	70	-	27,824
業務受託による収益	1,668	4,237	18	-	5,923
顧客との契約から生じる収益	29,421	4,237	89	-	33,747
その他の収益(注)	325	-	155	722	1,203
外部顧客への売上高	29,747	4,237	244	722	34,951

(注)「その他の収益」はリース取引に係る売上高であります。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	140.90円	332.44円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	1,020	2,585
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	1,020	2,585
普通株式の期中平均株式数(千株)	7,241	7,776
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	139.28円	332.01円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	84	10

(注) 1. 当社は、2022年7月22日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

2. 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、当社株式は2022年10月19日に東京証券取引所グロース市場に上場したため、新規上場日から前第3四半期連結累計期間の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年2月8日

SBIリーシングサービス株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 齋藤 映

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 田嶋 照夫

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているSBIリーシングサービス株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、SBIリーシングサービス株式会社及び連結子会社の2023年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。